

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672800071		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	グループホーム梅林園		
所在地	〒610-0113 京都府城陽市中芦原55番地		
自己評価作成日	平成23年3月12日	評価結果市町村受理日	平成23年7月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2672800071&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1 ひと・まち交流館京都 1F		
訪問調査日	平成23年4月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員それぞれがアイデアを出し合い、協力することでグループホーム独自の取り組みが充実している。 ・職員一人ひとりが利用者様及び家族様の信頼を受けて良好な関係が気付いている。 ・自分がここで生活しているという立場になって物事を考え、日々の生活援助を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>城陽市の南部、青谷梅林のある山地に国立南京都病院、府立城陽養護学校、府立心身障害者福祉センター、リハビリテーション病院等、医療・福祉の施設が立ち並ぶ坂道の最も高いところに法人施設がある。梅、桜等が咲き、自然に恵まれた広い園内には特養、長寿食開発研究所、診療所等が点在し、グループホームは最も高いところにある。立地上、地域との関係づくりについてさまざまな努力が続けられ、買物や外食、文化センターへの外出、園の夏祭り、文化祭、演芸会等への住民の参加等の機会に交流が図られている。なかでも近くの富野幼稚園の祖父母参観や運動会に出かけることが利用者の楽しみである。面会、運営推進会議への参加、園の行事に参加、利用者をつれての外泊、外出等、家族との連携ができています。昨年度利用者の看取りに取り組んだことは職員にとって大事な経験となった。毎年の評価結果を真摯に受け止め、改善に努めている。利用者はそれぞれ個性的で、職員の言葉遣いの不備を指摘するなど、自由に自分なりの生活をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念がある。リビングに貼り出し、誰でも確認が出来る。	法人理念「仁愛 清実 研鑽」をふまえ、職員一人ひとりが自分の思いを言葉にして検討し、グループホーム独自の理念を「暮らしのパートナーになる」と定めている。リビングに大きく掲示するとともに、家族には説明し、推進会議でも理解を図っている。新任職員には研修し、日頃の話し合いでも常に理念に立ち戻っている。年度ごとに見直しの話し合いをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の特養を地域と考え、様々な特養の行事に参加し、交流している。ショッピング等で外出の機会を多く持ち、顔馴染みの店に買い物に出かけている。	園内の特養やデイサービスの利用者が来訪し、話し込んだり、ゲームをしたりしてひと時を過ごしていく。マジックや腹話術のボランティアが来訪する。小学生がインタビューに来たり、中学生の体験学習を受け入れている。利用者は駅前のスーパーに買物に行ったときや、老人会主催の介護予防教室に参加したときに、地域の人と交流している。近くの富野幼稚園の運動会を見に行くのは楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところ地域の方々に向けての支援は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族から「家族も一緒に参加できる行事をしてほしい」と要望があり、年末のもちつきを一緒にした。	家族、民生児童委員、市高齢介護課職員、地域包括支援センター職員がメンバーとなり、隔月に開催し、記録を残している。多くの写真でホームの様子を報告し、メンバーから、医療連携はどうなっているのかの質問やメンバーから注連縄づくりを覚えてもらおう等、意見交換や協力を得ている。家族同士が交流できる行事をしてほしいとの意見により、年末に餅つきをし、家族が参加し、交流が進んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議や、地域密着型サービス連絡会議等に参加して頂き、連携を・協力して頂いている。	市の地域密着型事業所連絡会が3カ月ごとに開催され、参加して情報交換している。今後交換研修の開催などを働きかけている。	

京都府 グループホーム 梅林園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今まで身体拘束を実施した事例はない。職員会議において話し合いを行った。	「身体拘束をしない」という方針を契約書に明記し、マニュアルを作成するとともに職員研修を実施し、スピーチロックには十分気をつけている。門扉、玄関ドア、裏口等、すべて施錠していない。事故やヒヤリハット事例は記録に残しているものの要因分析はなく、再発防止の検討がなされていない。	事故やヒヤリハット事例は職員会議で検討し、再発防止につなげることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターの資料を基に職員会議で話し合いを行った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込時、入居契約時及び制度改正の際などに説明と同意を貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	城陽市の介護相談員に月1回訪問して頂いている。また、運営推進会議に家族様に出席して頂いて意見、要望を確認している。	家族は毎週来る人から少ない人でも3カ月に1度の面会があり、また運営推進会議や利用者の誕生会への参加等、来訪の際に意見や要望を聴いている。利用者と共に仕掛ける行事や家族同士の交流の機会を望む声があり、年末に餅つきを開催し、家族の交流が実現している。広報誌を毎月発行し、家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日のミーティングで意見を出し合い、取り組みに生かしている。	出勤の職員により、毎月の職員会議と毎日の朝ミーティングを実施しており、誕生会の演し物や外出先等、職員が意見を述べている。副園長による介護技術の研修が毎月実施され、全員が受講している。法人内の研修は計画に従って毎月実施され、ホームからの受講者は報告書を残し、伝達研修している。	全職員参加の職員会議において運営の相談、伝達研修、ケースカンファレンスを毎月実施すること、職員の自己評価ならびに目標設定を上司と面談し、研修受講等により支援すること、職員が他のグループホームの職員と交流することを支援することの3点が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い、気付きや自主性を評価し、その場で良い点や悪い点を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の法人内の職員研修に参加している。また、認知症や消防などの外部研修にも積極的に参加し書面やミーティングで伝達を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	城陽市内の地域密着型サービス事業所が集まり3ヶ月に一度連絡会議を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前に利用者と家族に対して面接を行い、身体状況や環境、本人の意向を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前に利用者と家族に対して面接を行い、家族関係や今後について、家族の意向を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャーとも連携し、必要に応じて他のサービスの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、介護される側という線を引かず、「暮らしを共にしている」という思いで支え合う関係を目指している、		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にレクリエーションや誕生日会に参加して貰い、一緒に時間を過ごして貰えるよう努力している、		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思いを大切に受け止め、外出や外泊の支援を行っている。 懐かしさを感じられる取り組みを行い、「昔は…だったなあ」などと話ができる環境を目指している。	利用者の馴染みの場や人等との、ホームの主体的な関係継続の支援がなされていない。	利用者がかつて現役で活動していたころも含めて、利用者の馴染みの人や場との関係が途切れないように支援すること、そのための情報を収集することが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員全体が把握し、その方にあった関わり方を見つけ、見守り、支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などによりグループホームでの対応が困難になった場合でも、定期的に状態の確認を行っている。病院への訪問や家族連絡など。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面接の際に確認し、日々の関わりの中で把握に努めている。	相談員と管理者が利用者や家族に面談し、医療情報、介護サービス利用情報、家族構成、ADL等の基本事項を聴取し、記録している。京都生まれ、一人っ子、27歳で結婚、専売公社勤務、京阪勤務等々の生活歴と世話好き、明るい等の性格等の情報を記録している。入居1カ月後までにセンター方式によりさらにアセスメントし、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時、入居前の面接時、入居時のアセスメント時などに本人様及び家族様から聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合わせた日課を検討し、やりがいをもって出来るよう		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアプランに対してモニタリングを行っている。状態変化があった時も本人や家族の意向を踏まえ、アセスメント、ケアプランを作成している。	担当職員が介護計画の案を作成し、職員会議で検討している。介護計画はマイナス面に目を向けたものだけでなく、「できることをしたい」等の利用者の意向に基づき、役割や楽しみの項目を入れた個別で具体的なものである。担当職員と管理者が介護計画の項目について実施状況、目標の達成度、今後の方向性等を検討し、毎月モニタリングを実施しているものの介護計画の見直しは半年ごとの更新となっている。ケース記録は時間にそって利用者の行動のみを書いており、モニタリングの根拠となっていない。	介護計画は本人や家族を含めて検討し、作成すること、計画には利用者の生活歴や趣味・嗜好等を生かしたものにすること、介護計画の見直しは3カ月ごとに実施すること、ケース記録は介護計画の項目にそって介護の実施、利用者の表情や発言等の観察、職員の考察を書き、モニタリングの根拠となるようにすることの4点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を充実させ、ケアプランの見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養に併設のグループホームのため入浴の際に特養のリフト浴を活用している。行事の際に特養やデイサービスの利用者とも交流している。		

京都府 グループホーム 梅林園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の支援により、外出の行事を計画したり、昔ながらのしめ縄作りが体験できている。手芸や歌のボランティアの方々とも交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を踏まえ、出来るだけ希望に沿って対応している。	利用者のかかりつけ医は従来の医師と園内の診療所医師があり、いずれも職員が同行しており、医師と情報交換している。入院時や退院時等にもサマリーの交換をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養診療所の看護職員と連携し、定期的な巡回と健康状態の確認を行っている。職員は申し送り書及び口頭で看護職員に伝え、対応の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に病院に病状の確認に伺っている。必要な際は病状説明に同席するなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における介護マニュアルを作成し、職員全員が共通の認識を持てるように努めている。	「グループホーム梅林園における看取りに関する指針」を明文化し、利用者や家族に説明している。マニュアルを作成するとともに職員研修を実施している。昨年度は1人の利用者の看取りを実施し、職員の自信となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに従って対応している。内部研修にて応急手当などの初期対応について訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、職員も防災意識を高めることが出来るよう努めている。	火災対策の設備、防火管理者、職員の緊急連絡体制を整えている。消防署の協力のもと、夜間想定も含めて年3回の避難訓練を実施している。法人として阪神大震災の際に被災者を2人受け入れた経験があるものの行政との協定書の締結はない。	利用者7人の3日分の備蓄はホーム内に準備すること、防災計画を立て、防災訓練を実施すること、法人として行政と地域との災害時の協定書を締結することの3点が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助の際などの言葉掛け(声の大きさ、口調など)に注意し、尊厳に配慮した対応を心がけている。	トイレと居室は鍵をかけることができ、プライバシーが守られている。トイレ誘導時の声かけについても配慮している。職員の言葉遣いについては研修を繰り返して利用者の尊厳保持に留意している。利用者の自己選択を支援するために飲み物は多数用意しており、毎日の被服は利用者が選んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方々から思いを引き出せるように、同じ時間を職員も過ごすよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴については基本的に10～17時の間で本人の希望する時間に入浴できるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の着替え準備や外出の衣類などは本人と相談しながら用意している。理髪はボランティアが		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事当番を曜日決めて利用者と一緒に食事作りを行っている。利用者により出来る能力が違うので、その方にあわせて無理なく出来ることを見極め援助している。	特養の管理栄養士が立てた献立により食材が配達され、利用者と一緒に調理や盛り付け、配膳、下膳等を行っている。利用者の希望により献立を変えることもある。毎週日曜日の夕食は利用者の希望の献立により食材を買いにいき、調理している。ホームで手作りした梅干等常備菜を用意している。おやつの手作りやお好み焼を楽しむこともある。外出のついでに外食や喫茶店によることもある。職員も同じ食卓で会話しながら食事している。献立のカロリー値と栄養バランスは把握しており、利用者の食事と水分の摂取量を記録している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを基に食事作り提供している。残食量の確認を行い、必要に応じて水分量のチェックをしている。また、好みの適温で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分でされる方以外の方には、声掛けや介助を行っている。		

京都府 グループホーム 梅林園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を基に各自の排泄間隔の把握を行うと共に、本人の訴えや排泄間隔を読み取って無理なくトイレ誘導し、排泄支援を行っている。	トイレでの排泄という方針のもと、利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導している。トイレ誘導の拒否があった利用者も排泄自立という改善がみられる。排便についても自然排便を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材は繊維の多いものを調理し、水分をしっかりと摂るよう心掛けている。また、散歩やゲームなどで体を動かせるよう努め、必要時は便薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1ヶ月ごとに入浴日を決めているが、その日の気分や体調により時間や日を変更して対応している。おおむね2日に1回の入浴。	明るく広い浴室である。風呂は毎日準備し、利用者の希望の時間帯に支援している。隔日に入る人が多いが、毎日でも夜間でも希望すれば入ることができる。ゆず湯を楽しんでいる。近くのヘルスセンターに家族がつれて行く利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後にお茶を提供したり、お話をしたりTVを見たりと、ゆったりと時間を過ごせるよう職員も対応している。利用者自身が自分で就寝時間を決めて休まれる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の一覧表を作成して把握を行っている。その効能や副作用がすぐに見られるように作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事への参加と、余暇や行事への取り組みを通して、生活している実感と楽しみの充実を支援している。嗜好品も出来るだけ制限なく楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様からの希望を大切に出来るだけ要望に沿える対応をしている。また、外出のレクなどは「去年は…」と回想できるよう同じ場所に行くよう心掛けている。また、家族が食事・買い物・外泊などの援助を行っている。	ふだんは広い園内を散歩している。園外には車で買物に行っている。井手町玉川の花見、普賢寺の菜の花、山田池公園の花しょうぶ、巨椋池の花蓮、宇治田原のコスモス、城陽の紅葉狩り、クリスマスイルミネーション、荒見神社の初詣等、季節ごとの外出をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常時現金を所持・管理している方もいるが、その他の方は希望により現金を立て替え払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応できる。		

京都府 グループホーム 梅林園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレにはいつも花を一輪飾るようにしている。リビングには季節を感じられるような花を飾ったり、季節を感じられるような置物もその都度置くようにしている。CDで童謡や歌謡曲をBGMに食事や余暇が出来るようにしている。	テレビやラジカセの音は音量をしぼるように注意している。職員の声の大きさにも常に注意を払っている。園内で増設工事中は音がうるさいと利用者から苦情がでて、防音シートを二重に敷いた。リビングは昼光色を使用し、壁には行事の写真や割り箸を扇面にし折り紙でつくった七福神を飾ったものをかけている。季節の花が咲いている中庭で食事やおやつを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や和室やリビングが食事等で思い思いに過ごすことができるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの物を持ち込んで貰っている。	居室には洗面台、押入れ、ベッド、整理タンス、小さなケース、時計等を備えており、利用者はテーブル、椅子、テレビ等をもちこんでいる。仏壇において毎日水と花をあげている利用者もいる。飾り棚に海外旅行のみやげ等をびっしり飾っている人、花の鉢を一杯並べている人、趣味で制作した仏像の額を飾っている人等、利用者が自分の部屋として個性的にレイアウトしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室などにも介助バーや手すりを設置しており、イスもその人が立ち上がりやすい高さのものに座って貰っている。介助をしすぎないように一人ひとりの能力を見極めて援助している。		